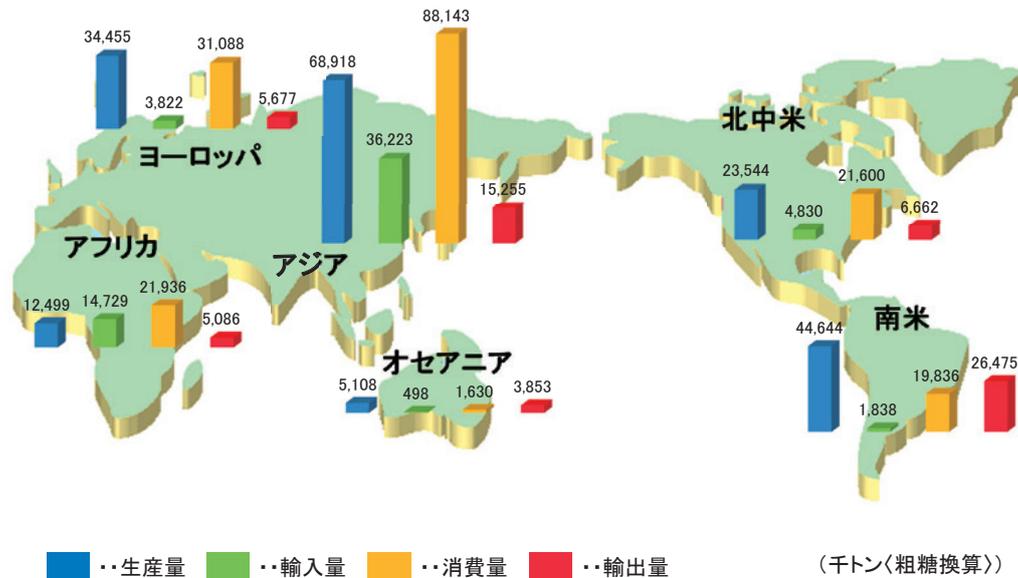


## 砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

### 1. 世界の砂糖需給（2018年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：英国の調査会社 Agra CEAS Consulting 「World Sugar : Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	35,477	109,012	27,349	109,390	32,516	29,932	27.4
1994/95	36,020	116,084	33,328	114,963	33,905	36,564	31.8
1999/2000	54,618	134,332	38,747	130,126	40,070	57,501	44.2
2004/05	65,620	141,016	46,976	144,649	50,021	58,942	40.7
2009/10	60,045	158,448	57,159	162,342	57,166	56,144	34.6
2013/14	74,249	181,470	58,464	175,770	59,085	79,327	45.1
2014/15	79,327	180,641	58,788	178,658	59,602	80,497	45.1
2015/16	80,497	174,151	66,355	180,187	69,169	71,646	39.8
2016/17	71,646	179,595	63,001	180,548	66,258	67,435	37.4
2017/18 (2017年12月予測)	67,855	191,402	61,799	184,236	63,662	73,158	39.7
2017/18 (2018年3月予測)	67,435	189,169	61,939	184,232	63,008	71,303	38.7

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar : Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

注4：期末在庫率は期末在庫量を消費量で除した割合である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_001711.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001711.html)

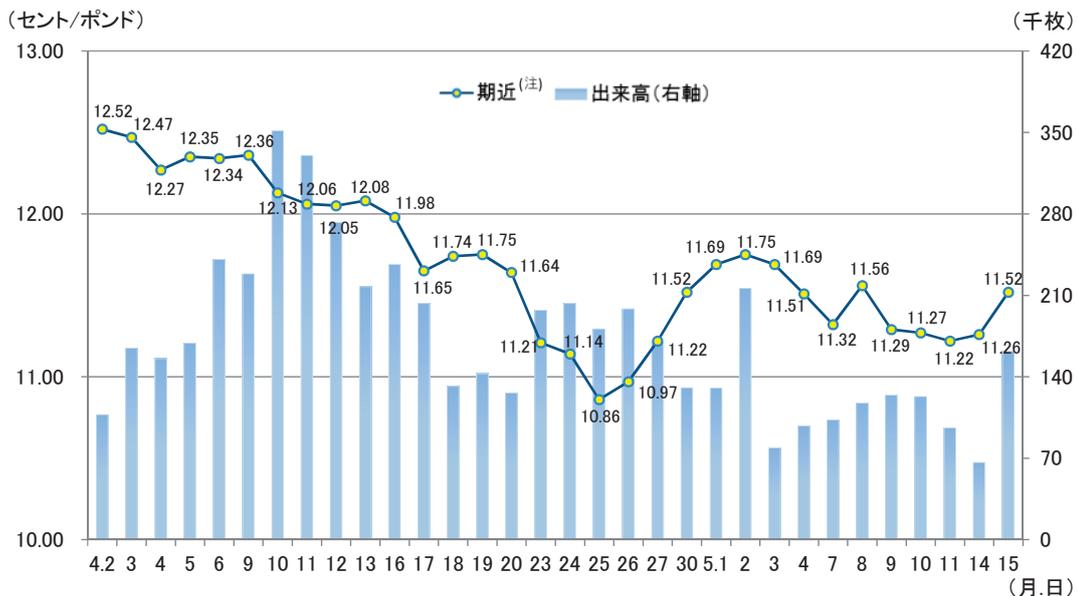
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_001712.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001712.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖相場の動き（4/2～5/15）

～世界的な供給過剰予測などから一時1ポンド当たり11セントを割り込む～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）  
注：4月は期近5月限、5月は7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（5月限）<sup>がつぎり</sup>の2018年4月の推移を見ると、前月28日に1ポンド当たり12.21セント<sup>（注1）</sup>と約2年半ぶりの安値を付けたものの、売られ過ぎとの見方から上昇した先週末の流れを引き継ぎ、2日は同12.52セントまで回復した。しかし、世界的な供給過剰の中で上昇要因が見当たらないため、4日に同12.27セントへ値を下げ、その後は同12.3セント台でこう着状態が続いた。10日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）<sup>（注2）</sup>が公表した3月までのエタノール生産量が想定ほど増えていなかったことから、同12.13セントまで下落し、翌11日はインド政府が輸出補助金を措置するとの憶測が広がり、同12.06セントとさらに下落した。上昇要因が乏しい中、16日について同12セントを割り込むと、翌17日には同11.65セントまで急落した。週末にかけてはもみ合いとなったが、週が明けると、下げ足を速める展開となり、

25日に期近限月としては2008年12月以来の安値となる同10.86セントまで下落した。その後、30日は納会に絡んだ買い戻しの動きに支えられて反発し、同11.52セントで取引を終えた。

5月に入り期近限月が7月限に切り替わると、2日には同11.75セントまで上伸した。しかしながら、3日、インド政府がサトウキビ生産者に補助金を交付する計画を発表したとの報道が伝わると、供給過剰への懸念から下落に転じ、7日には同11.32セントまで値を下げた。8日は買い戻され反発したものの、翌日には再び下落し同11.29セントの値を付け、その後も小幅に下げた。週明けの14日は小幅に上昇し、15日は買い戻しの動きが強まり同11.52セントとなった。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2018年5月時点予測)

本稿中の為替レートは2018年4月末日TTS相場の値であり、1米ドル=110円(110.35円)、1ユーロ=134円(133.89円)、1インド・ルピー=1.80円である。

#### ブラジル

##### 2017/18年度(4月～翌3月)の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：856万ha(前年度比1.0%増)  
生産量：6億4031万トン(同1.8%減)

###### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：4147万トン(同0.5%減)  
輸出量：3079万トン(同2.2%増)

#### 2017/18年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、 輸出量はわずかな増加の見込み

英国の調査会社 LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)の2018年5月現在の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2017/18砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は856万ヘクタール(前年度比1.0%増、前月予測と同水準)とわずかに増加すると見込まれているものの、北東部の干ばつの影響などから生産量は6億4031万トン(同1.8%減、前月予測と同水準)とわずかに減少すると見込まれている(表2)。砂糖生産量(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算))は、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加などにより、4147万トン(同0.5%減、前月予測と同水準)と北東部の減産分をカバーし、ほぼ横ばいを見込まれている。砂糖輸出量は、世界的に輸入需要が弱まるとされているものの、3079万トン(同2.2%増、前月予測と同水準)とわずかな増加が見込まれている。

#### CONAB、2018/19年度の生産見通しを公表

ブラジル国家食料供給公社(CONAB)が5月3日に公表した2018/19年度の生産予測によると、

製糖業者の間で原料搬入コストの削減を図るため、工場から離れた土地の栽培契約を見送る動きが広がっていることなどが影響して、サトウキビ収穫面積は861万ヘクタール(前年度比1.3%減)とわずかな減少が見込まれている。そして、砂糖生産量は3548万トン(同6.3%減)とかなり減少する見込みとなっている。これは、世界的な砂糖価格の低迷を背景にサトウキビをエタノール生産へ仕向ける割合が増加することに加え、サトウキビの梢頭部や枯れ葉を燃やす、いわゆる焼き畑による収穫が主要産地のサンパウロ州で2018年から全面禁止となったことから、工場に搬入される原料に混入する夾雑物きょうざつの量が増え、製糖歩留まりの低下を招く可能性があることも要因として挙げられている。

一方、UNICAが発表した2018年4月の生産実績報告(注)によると、収穫作業が天候に恵まれ順調に進んだことから、サトウキビ圧搾量は5984万トン(前年同月比42.7%増)、砂糖生産量は224万トン(同21.6%増)と、ともに大幅増となった。製糖業者におけるエタノール生産量も、272万キロリットル(同67.7%増)と大幅増となった。

## EUとのFTA交渉、農業分野で歩み寄りの姿勢を見せる

4月下旬、ブラジルなど南米4カ国が加盟する南米南部共同市場（メルコスール）とEUによる自由貿易協定（FTA）交渉会合がブリュッセルで開催された。現地報道によると、焦点である工業製品の関税の引き下げに加え、政府調達拡大や地理的表示の保護などを求めるEUとの意見の隔たりが埋まらず大筋合意には至らなかったものの、農業分野の一部の品目で歩み寄りの姿勢も見られ、長らく停滞していた交渉がようやく一歩前進した。交渉直前の3月下旬と4月中旬に、EU、ブラジル、アルゼン

チンなども参加して開かれた20カ国財務大臣・中央銀行総裁会議（G20）において、多くの国が世界的に高まる保護主義に対する懸念を表明し、自由貿易の重要性を共有したことが追い風となったとみられる。

次の交渉日程は確認されなかったが、来年はアルゼンチンとウルグアイが大統領選挙を控え、EUでは欧州委員の任期満了を迎えることから、両者とも年内の大筋合意を目指している。

（注）中南部地域の値。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

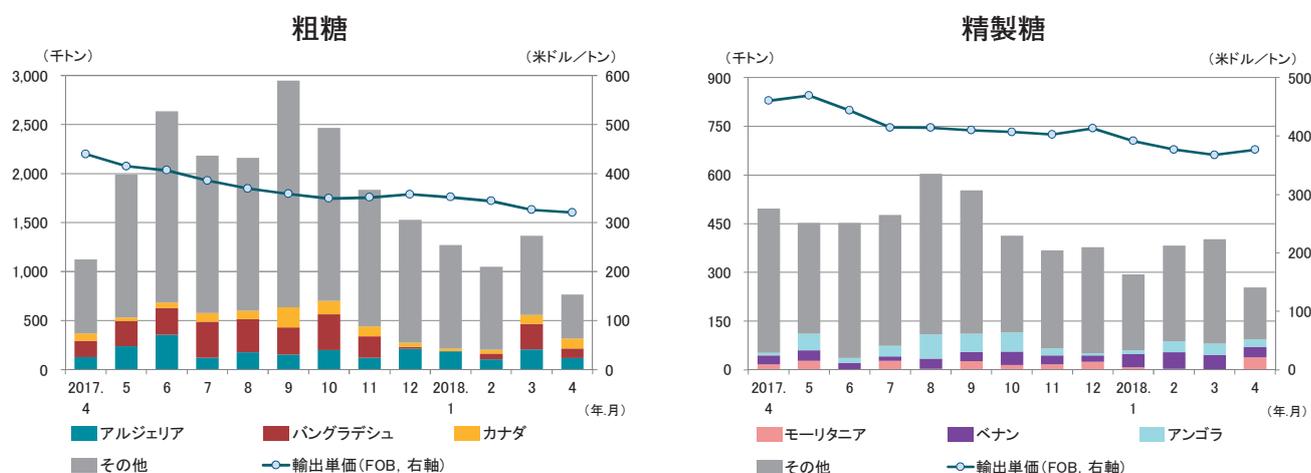
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,784	8,188	8,474	8,560	8,560	1.0	
サトウキビ生産量	632,127	666,824	651,841	640,313	640,313	▲ 1.8	
砂糖	生産量	38,147	36,472	41,670	41,470	▲ 0.5	
	輸入量	1	1	1	1	68.5	
	消費量	12,625	12,057	11,502	11,445	▲ 1.8	
	輸出量	24,871	26,023	30,117	30,726	2.2	
	期末在庫量	2,346	739	791	91	180	▲ 77.3
	期末在庫率	18.6	6.1	6.9	0.8	1.6	5.3 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

### （参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



## インド

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：483万ha（前年度比11.7%増）

生産量：3億9272万トン（同28.3%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3429万トン（同56.9%増）

輸出量：341万トン（同52.9%増）

### 2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は483万ヘクタール（前年度比11.7%増、前月予測比2.8%増）とかなりの増加が見込まれ、生産量は3億9272万トン（同28.3%増、同5.6%増）と大幅増が見込まれている（表3）。砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれることから、3429万トン（同56.9%増、同5.0%増）と3年ぶりの増加が見込まれている。砂糖輸出量は、生産量の増加に伴い急激に在庫が積み上がる見通しを背景に、341万トン（同52.9%増、同70.7%増）と大幅増が見込まれている。

インド製糖協会（ISMA）によると、2017年10月から翌4月までの砂糖生産量は、精製糖換算で3104万トン（前年同期比59.1%増）と大幅増となった。州別に見ると、マハラシュトラ州は1065万トン、ウッタルプラデシュ州は1120万トン、カルナタカ州は363万トンであった。

### 政府、製糖業者に対し最低輸出義務を課す

政府は3月、砂糖に対する20%の輸出関税を撤廃するとともに、製糖業者に対し200万トンの最低輸出義務を課した。砂糖の輸入増加で国内消費が飽和状態にある中、サトウキビの増産による砂糖の国内価格の下落と在庫の急増が重なり、製糖業者の業績が悪化し、生産者への原料代の支払いが滞っていたことから、今回の措置はこれらを解消する狙い

がある。最低輸出義務は、2015年以来3年ぶりの設定となり、2018年9月までに履行する必要がある。同時に、生産した砂糖を輸出した製糖業者に対して、2021年までの間、その輸出量を上限に粗糖を無税で輸入できる措置も講じる。

現地報道によると、輸出義務は5月までに達成されたとみられるが、輸出価格が生産コストを下回る水準で推移しているため、対応できた製糖業者が限られ、その効果も限定的であった。このため政府は、砂糖の民間在庫を政府が買い上げるといった新たな計画の検討に着手した。

### 生産者への未払い額、450億円に達する

現地報道によると、製糖業者からサトウキビ生産者へ未払いとなっている原料代の合計額が250億ルピー（450億円）に達し、いくつかの州では生産者の経営が維持できるよう州政府が救済措置として製糖業者の債務を一部肩代わりしている。これを受け政府は5月2日、サトウキビ1トン当たり55ルピー（99円）を生産者に交付する計画を発表した。この財源についてインドの財務大臣は、「物品・サービス税<sup>(注)</sup>の増税によって確保することを検討している」と述べ、砂糖をその対象品目にする可能性を示唆した。今回の発表をめぐっては、2014年に政権交代によって誕生したモディ首相率いる政府が、来年実施される5年に1度の総選挙に向け、大票田である農村部の支持固めに入っているのではないかという見方がある。他方、ブラジルや豪州など主要な砂糖生産国からは、輸出補助金の禁止を定め

たWTO協定に反していると指摘する声が聞かれ、これらの国の関係者は5月上旬に米国で会合を開き、WTOへの提訴に向け協議を始めた。これに対し、インド政府は「計画する補助金は生産者に直接交付するものであり、輸出補助金には当たらない」との見解を示している。

(注) 物やサービスに係る間接税は、政府と州政府ごとに税率などが異なり、複雑な税体系となっていたことから、経済成長の阻害要因となっていた。このため、政府は税制改正を行い、2017年に「GST」と呼ばれる全国統一の税制を導入した。

表3 インドの砂糖需給の推移

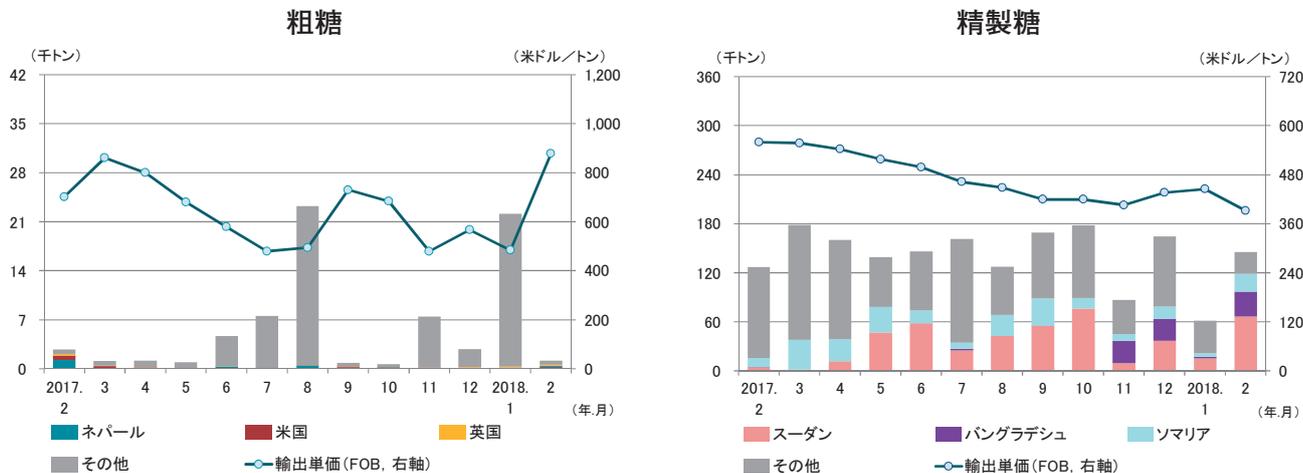
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,942	4,806	4,327	4,702	4,832	11.7	
サトウキビ生産量	378,969	356,871	306,070	371,911	392,719	28.3	
砂糖	生産量	30,529	27,091	21,848	32,671	34,289	56.9
	輸入量	1,509	2,146	2,458	2,100	2,000	▲ 18.6
	消費量	25,920	26,784	26,568	27,648	27,432	3.3
	輸出量	2,468	3,955	2,233	2,000	3,413	52.9
	期末在庫量	9,871	8,370	3,874	9,214	9,318	140.5
	期末在庫率	38.1	31.2	14.6	33.3	34.0	19.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 中国

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：123万ha（前年度比4.5%増）

生産量：7678万トン（同4.2%増）

#### 【てん菜】

収穫面積：19万ha（同10.7%増）

生産量：959万トン（同8.7%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1103万トン（同11.5%増）

輸入量：525万トン（同9.3%減）

### 2017/18年度、砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）においては、サトウキビについて、収穫面積は123万ヘクタール（前年度比4.5%増、前月予測と同水準）、生産量は7678万トン（同4.2%増、前月予測と同水準）と、ともにやや増加が見込まれている（表4）。てん菜については、収穫面積は19万ヘクタール（同10.7%増、前月予測と同水準）、生産量は959万トン（同8.7%増、前月予測と同水準）と、ともにかなりの増加が見込まれている。地域別では、てん菜の主要生産地である内モンゴル自治区の増加が著しい。これらにより、砂糖生産量は1103万トン（同11.5%増、前月予測と同水準）とかなりの増加が見込まれている。砂糖生産量は依然として消費量を下回ると見込まれるが、砂糖輸入量は砂糖に対する追加関税措置により525万トン（同9.3%減、前月予測比2.2%増）とかなりの減少が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）によると、2017年10月から翌4月までの砂糖生産量は、精製糖換算で1021万トン（前年同期比11.6%増）とかなり増加した。このうち、甘しゅ糖は906万トン（同11.8%増）、てん菜糖は115万トン（同9.8%増）と、ともにかなり増加している。

### 中国農業省、2018/19年度の需給見通しを公表

中国農業省が5月13日に公表した砂糖を含む農

産物の2018/19年度の需給見通しによると、砂糖生産量は1068万トン（前年度比4.2%増）とやや増加することが見込まれ、砂糖消費量は世界的な砂糖の供給過剰を背景とした砂糖価格の下落により消費が押し上げられ、1520万トン（同1.3%増）とわずかな増加が見込まれている。

### 2017/18年度上半期の砂糖輸入量、前年同期を大幅に下回る

2018年3月の砂糖輸入量は、旧正月（春節）明けの反動と需給の逼迫感の高まりなどを受け、前月比で10倍を超える38万トン（前年同期比25.9%増）となった。ただし、政府は2017年5月22日から3年間、関税割当（枠内税率15%）の枠外で輸入される砂糖に対し、反ダンピング関税を課している<sup>（注）</sup>ことから、2017/18年度上半期の砂糖輸入量は89万トン（前年同期比33.9%減）と大幅減となった。

（注）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に損害が生じたはその恐れがあるとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率に45%の追加関税を課した。ただし、2年目は40%、3年目は35%と段階的に引き下げられる予定となっている。なお、追加関税について、開発途上の約190の国・地域（フィリピンやパキスタンなど以前から中国と関係の深い国も含む）については、一定の条件を満たせば除外される。

表4 中国の砂糖需給の推移

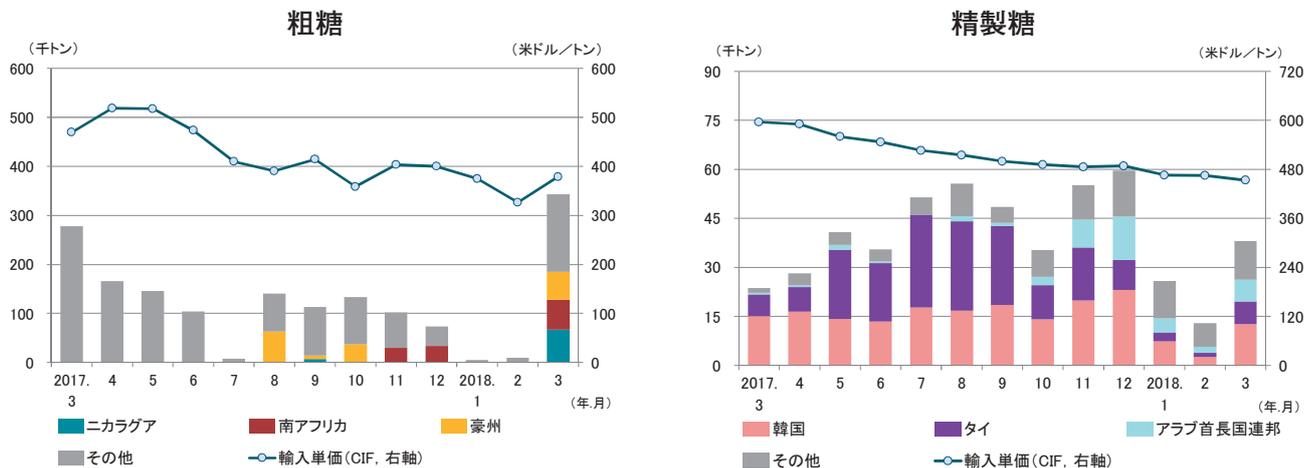
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,457	1,311	1,178	1,231	1,231	4.5	
サトウキビ生産量	85,037	74,950	73,690	76,780	76,780	4.2	
てん菜収穫面積	130	136	168	186	186	10.7	
てん菜生産量	6,416	6,880	8,820	9,590	9,590	8.7	
砂糖	生産量	11,412	9,405	9,890	11,028	11,028	11.5
	輸入量	6,759	7,910	5,785	5,136	5,248	▲9.3
	消費量	16,680	16,847	16,847	16,931	16,931	0.5
	輸出量	71	181	146	133	133	▲8.9
	期末在庫量	11,638	11,926	10,608	9,708	9,819	▲7.4
	期末在庫率	69.8	70.8	63.0	57.3	58.0	5.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## E U

### 2017/18年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：172万ha(前年度比17.6%増)

生産量：1億3440万トン(同25.7%増)

#### 【砂糖(てん菜糖)】

生産量：2149万トン(同22.4%増)

輸出量：381万トン(同2.5倍)

### 2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

生産割当廃止後の初年度となる2017/18砂糖年度(10月～翌9月)は、てん菜の収穫面積は172万ヘクタール(前年度比17.6%増、前月予測と同水準)、生産量は好天による単収の増加もあり1億

3440万トン(同25.7%増、前月予測と同水準)と、ともに大幅増が見込まれている(表5)。これにより、砂糖生産量は2149万トン(同22.4%増、前月予測と同水準)、輸出量は381万トン(同2.5倍、前月予測比7.9%減)と、ともに大幅増が見込まれている。

## 砂糖卸売価格、生産割り当て廃止以降下落が続く

欧州委員会がまとめた2018年2月のEU域内の砂糖卸売価格（以下「卸売価格」という）は、前年同月比25.2%安の1トン当たり372ユーロ（4万9848円）となった。卸売価格は、これまで砂糖の国際価格（ロンドン白糖価格）の影響を受けにくく、同500ユーロ（6万7000円）前後で安定的に推移していたが、2017年10月の生産割り当ての廃止により国際価格との相関性が高まり、国際価格と連動して下落を始めていた。10月以降の卸売価格は、国際価格を上回った状態で推移しているものの、2月時点の価格差は1トン当たり15ユーロ（2010円）程度まで縮小しており、今後、さらに縮まると予想される。

現地報道によると、製糖業者の多くがこうした状況に頭を抱えており、関係者は「現在の価格水準は、生産コストの削減や販売量を増やしても利益を確保できるような状況でない」としている。

## 寒波の影響で<sup>はしゅ</sup>播種作業が大幅に遅延

現地報道によると、てん菜の播種期に当たる3月に広範囲で寒波に見舞われ、平年より播種作業が大幅に遅れている。てん菜の主要生産国であるフランスでは、播種の開始が平年より20日遅れとなった。播種が遅れると栽培期間が短くなるため、てん菜生産量が3%程度減産する見込みで、この状況は他のEU諸国でも同様であることから、2018/19年度の砂糖の需給予測に影響が出るとみられる。

## 欧州委員会、ネオニコチノイド系農薬の使用禁止を決定

欧州委員会は、欧州各地でミツバチが減少している事態<sup>(注)</sup>に対処するため、2018年4月27日、ネオニコチノイドと呼ばれる農薬のうち、クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムを主成分

とする薬剤（以下「対象薬剤」という）について、すべての作物への使用を禁止すると公表した。周知期間などを考慮すると、使用が禁止されるのは早くとも今年の秋以降になるとみられる。なお、温室内での使用や、対象薬剤以外のネオニコチノイドの使用は引き続き認められる。

ネオニコチノイドは、根から吸収され植物全体に浸透する特性から、種子にコーティングする、種子をまく溝の中に散布するなどの方法で施用される。害虫に直接散布したり、葉面散布したりする農薬と比べ、効果に持続性があり散布回数を減らせるなどの利点から、世界で広く使用されている。てん菜生産においては、ウイルス性の萎黄病を媒介する害虫を防除する最も有効な薬剤とされている。しかし、欧州食品安全機関が2月にまとめた報告書では、対象薬剤について「屋外での使用は野生種を含めミツバチへのマイナスの影響を排除できない」と結論付けられた。

今回の決定を受け、EU最大のてん菜生産国であるフランスの農業団体は、「昆虫を媒介するウイルス性の萎黄病に感染するリスクが高まり、てん菜の収量が平均で12%減少するだろう」としている。

(注) 蜂群崩壊症候群と呼ばれる現象。ミツバチの方向感覚などに何らかの障害が起き、巣に戻れなくなると考えられている。ミツバチは多くの植物の受粉に関わるため、その個体数の減少は養蜂業のみならず、農業や生態系に与える影響が大きい。

表5 EUの砂糖需給の推移

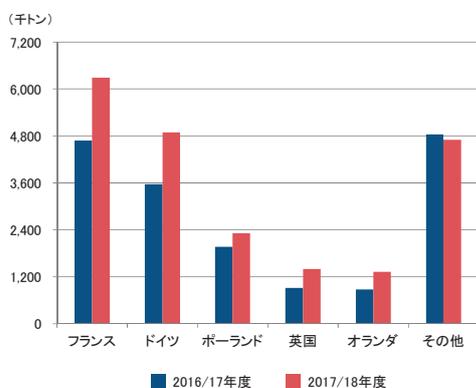
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,602	1,364	1,463	1,721	1,720	17.6	
てん菜生産量	129,154	94,986	106,913	133,975	134,402	25.7	
砂糖	生産量	19,362	14,937	17,554	21,340	22.4	
	輸入量	3,378	3,651	3,115	1,739	▲ 47.7	
	消費量	19,620	19,481	18,816	18,148	▲ 3.2	
	輸出量	1,558	1,501	1,510	4,131	152.0	
	期末在庫量	4,307	1,913	2,256	3,073	3,359	48.9
	期末在庫率	22.0	9.8	12.0	16.9	18.4	6.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合

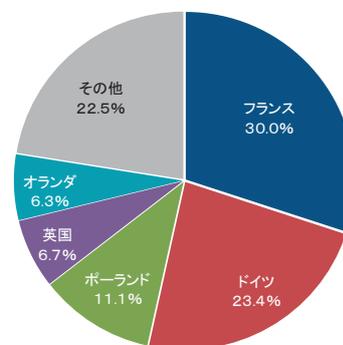


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2018年1月時点での予測値。

注3：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：生産割合は2017/18年度。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2018年5月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。本稿中の為替レートは2018年4月末日TTS相場の値であり、1豪ドル=85円（84.61円）、1タイ・バーツ=3.53円、1フィリピン・ペソ=2.26円である。

## 豪州

### 2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：37万ha（前年度比1.4%増）

生産量：3346万トン（同8.3%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：457万トン（同5.1%減）

輸出量：368万トン（同8.2%減）

### 2017/18年度、サトウキビの減産に伴い砂糖生産量、輸出量ともに減少の見込み

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は37万ヘクタール（前年度比1.4%増、前月予測と同水準）とわずかな増加が見込まれているものの、2017年3月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3346万トン（同8.3%減）とかなりの減少が見込まれている（表6）。これに伴い、砂糖生産量は、457万トン（同5.1%減、前月予測と同水準）とやや減少が見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い368万トン（同8.2%減、前月予測比1.1%増）とかなりの減少が見込まれている。

### 3月上旬の洪水による被害見込み額は100万豪ドル程度

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が3月6日に公表した生産予測によると、2018/19年度は、サトウキビの収穫面積が拡大し生産増が予想されることから、砂糖生産量は483万トン（前年度比2.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、輸出量は386万トン（同0.5%増）にとどまると見込まれている。

しかし、クイーンズランド州北部では3月上旬、数日間降り続いた豪雨の影響で大規模な洪水が発生し、サトウキビの生産地帯では圃場が冠水し、サトウキビを工場に輸送するための鉄道網が寸断するなどの甚大な被害を受けた。現地報道によると、これによる被害額は100万豪ドル（8500万円）程度と

見込まれている。被害が大きかったケアンズからタウンズビルにかけての地域では、サトウキビが倒伏したり、長時間水に浸かったりしたため今期の減産が予想される一方、近年干ばつ傾向で推移していたことから、今回の雨をむしろ前向きに捉え、乾いた土壌に十分な水を行き渡らせる効果があったとする声もある。

### 世界砂糖連盟、インドとパキスタンが実施する輸出支援策を非難

豪州に事務局を置く世界砂糖連盟（Global Sugar Alliance）<sup>（注1）</sup>は5月上旬、声明を発表し、インドとパキスタンの両政府が実施する砂糖の輸出支援策<sup>（注2）</sup>に対し、「長期的には自国の砂糖産業の持続的な生産や成長を阻害することになる」と警告するとともに、「世界的な供給過剰を引き起こす要因となっている」と非難し、WTOのルールを順守するよう求めた。

（注1）豪州、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、グアテマラ、南アフリカ、タイの製糖業者が加盟する連合組織。砂糖の貿易自由化の推進、世界の砂糖取引環境の改善などを行っている。

（注2）インド政府は2018年3月、製糖業者に200万トンの最低輸出義務を課し、5月には生産者に補助金を交付する計画を公表した。パキスタン政府は、砂糖の国内供給量を調整するため、2018年1月から輸出補助金の対象数量を50万トンから200万トンに引き上げた。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	378	382	368	373	373	1.4
サトウキビ生産量	32,361	34,941	36,506	33,408	33,459	▲ 8.3
砂糖	生産量	4,547	4,889	4,816	4,534	▲ 5.1
	輸入量	164	164	67	30	▲ 55.5
	消費量	1,187	1,196	1,172	1,125	▲ 4.0
	輸出量	3,412	4,384	4,004	3,635	▲ 8.2
	期末在庫量	1,795	1,267	974	779	▲ 20.3
	期末在庫率	151.2	105.9	83.1	69.2	69.0

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：173万ha（前年度比9.9%増）

生産量：1億3353万トン（同43.7%増）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1564万トン（同46.7%増）

輸出量：1135万トン（同53.6%増）

### 2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は他作物からの転作などにより173万ヘクタール（前年度比9.9%増、前月予測比2.5%増）とかなりの増加が見込まれ、生産量は単収の増加もあり1億3353万トン（同43.7%増、同2.5%増）と大幅増が見込まれている（表7）。砂糖生産量は、好天による製糖歩留まりの向上もあり、1564万トン（同46.7%増、同3.2%増）と大幅増が見込まれている。このため、輸出量は1135万トン（同53.6%増、同1.9%減）と大幅増が見込まれている。

現地報道によると、2017年10月から翌5月中旬までの砂糖生産量は、既に前年度の砂糖生産量を上回る1492万トン（前年同期比44.9%増）に達している。

### タイの副首相、TPP11協定に参加の意向

現地報道によると、ソムキット副首相は3月29

日、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定」（TPP11協定）への参加の意向を示し、商務省に対し参加に向けた手続きを開始するよう指示した。また、同副首相は5月1日、タイを訪問した茂木経済再生担当大臣と会談を行い、TPP11協定へ参加する意向を伝えるとともに、日本の協力を求めた。正式な参加表明は、国内での調整が整い次第、年内に行う方針である。TPP11協定は、現参加国の少なくとも6カ国の国内手続きが完了してから60日後に発効すると定めていることから、タイの参加は協定発効後になるとみられる。

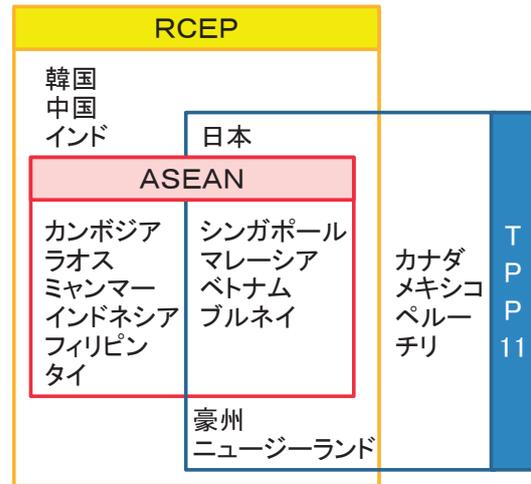
### ASEAN議長声明、RCEPの交渉加速化に意欲

東南アジア諸国連合（ASEAN）は4月28日、シンガポールで首脳会議を開いた。会議終了後に発表された議長声明では、世界的に広がる保護主義・反グローバル化に強い懸念を示し、「自由貿易体制を支持する立場を引き続き堅持することを改めて確認した」と表明した。その上で、ASEAN加盟10

力国に日本、韓国、中国、インド、豪州、ニュージーランドの6カ国を加えた東アジア地域包括的経済連携（RCEP）について、「担当閣僚や交渉担当官に対し、早期妥結に向けて残された課題の解決に全力を尽くすよう指示した」と述べ、交渉の加速化を呼びかけた。また、5月9日の日中韓サミットでも、RCEPの早期妥結に向け連携することで一致するなど交渉参加国の間で合意に向けた機運が急速に高まっている。

現地報道によると、関係者の間では貿易や投資などで質の高い自由化を求める日本、豪州、ニュージーランドなどと、国内産業の保護を優先したい中国、インドなどとの隔たりが大きく、交渉は難航するとの見方が優勢である。

図 アジア・太平洋地域における経済連携の状況



資料：外務省のホームページを基に機構作成  
注：2018年5月現在。

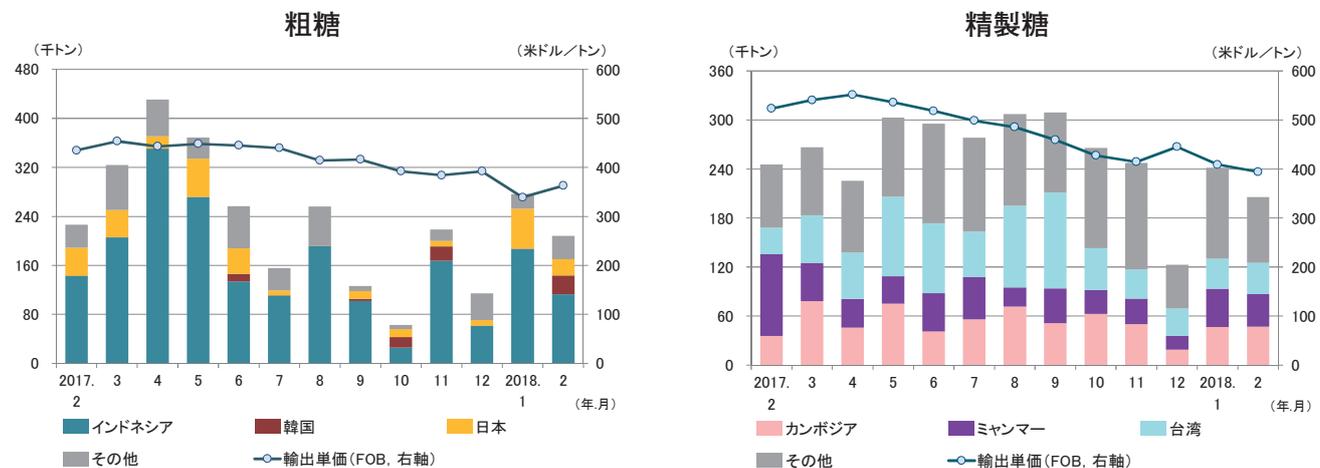
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,535	1,644	1,578	1,692	1,734	9.9
サトウキビ生産量	105,959	94,047	92,951	130,256	133,530	43.7
砂糖	生産量	12,036	10,402	10,657	15,157	46.7
	輸入量	0	1	0	1	558.4
	消費量	3,262	3,272	3,283	3,294	0.2
	輸出量	8,186	7,932	7,393	11,567	53.6
	期末在庫量	4,771	3,970	3,951	4,247	25.2
	期末在庫率	146.3	121.3	120.3	128.9	150.4

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」  
注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## フィリピン

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比0.7%増）  
生産量：2547万トン（同9.0%減）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：227万トン（同9.4%減）  
輸出量：22万トン（同21.6%減）

### 2017/18年度、砂糖生産量はかなり減少、 輸出量は大幅減の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は42万ヘクタール（前年度比0.7%増）とほぼ横ばいと見込まれ、生産量は2547万トン（同9.0%減）とかなりの減少が見込まれている。砂糖生産量は、製糖歩留まりの低下に伴い227万トン（同9.4%減）とかなりの減少が見込まれている。そして、砂糖輸出量は22万トン（同21.6%減）と大幅減が見込まれている（表8）。

砂糖統制委員会（SRA）<sup>（注1）</sup>が発表した2017年10月から翌4月までの生産実績報告によると、収穫期を迎えた12月上旬、被災者約16万人に及ぶ大きな被害をもたらした豪雨と壊滅的な洪水の影響により、サトウキビ圧搾量は2143万トン（前年同期比7.1%減）、粗糖生産量は187万トン（同10.2%減）と、ともにかなり減少した。

### 政府、1月から「砂糖税」を導入

政府は1月、税制改革の一環として、飲料に対し

「砂糖税」を導入した。飲料1リットル当たりの税額は、異性化糖を使用したものが12ペソ（27円）、砂糖を含むそれ以外の甘味料を使用したものが同6ペソ（14円）となっている。これによる税収は主に国内のインフラ投資の財源に充てられる。現地報道によると、糖種により税率が異なるため、飲料製造業者の間で異性化糖から国産糖へ切り替える動きが進んでいる。中国側から見ると、異性化糖を最も多く輸出している相手国がフィリピンであることから、こうした動きが加速すると中国国内の異性化糖産業に影響を与える可能性がある。

また、これに合わせSRAは、2017/18年度の砂糖生産量に対する国内供給向けの割当数量を1月に80%から93%、4月にはさらに94%へ引き上げた<sup>（注2）</sup>。これに伴い、米国輸出向けの割当数量を6%へ引き下げ、その他国輸出向けは設定を見送った。

（注1）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

（注2）2017/18年度の砂糖の割当数量は、2017年8月末時点では、国内生産量のうち、①10%を米国向け（特恵的な関税枠を有す）②80%を国内向け③10%を輸出向けに設定していた。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	417	413	421	424	0.7	
サトウキビ生産量	23,384	23,254	28,005	25,472	▲ 9.0	
砂糖	生産量	2,324	2,239	2,501	2,266	▲ 9.4
	輸入量	102	441	123	252	104.4
	消費量	2,427	2,347	2,348	2,400	2.2
	輸出量	47	168	283	222	▲ 21.6
	期末在庫量	361	526	518	414	▲ 20.0
	期末在庫率	14.9	22.4	22.1	17.3	4.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2018」

注：期末在庫量、前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。